

シ其代表者タル縣知事ヲ相手取りタルハ對手人ヲ誤リタルモノナリト云フモ原告ハ後ニ之ヲ訂正シタルノミナラス訴狀中一定ノ申立ニ於テ岩手縣參事會カ與ヘタル裁決ヲ取消シ云々トアルニ依レハ訴狀中ノ巖手縣トアル下ニ參事會ノ三字ヲ遺脱シタルモノト認メサルヲ得ス而シテ本案ニ付テハ原告ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタルモ抗告ノ結果該宣告ヲ取消サレタルヲ以テ公民權ヲ停止セラレタル者ニアラス隨テ失職者ニアラスト云フト雖モ町村制第九條第二項ニ町村公民タル者(中略)其公民タルノ權ヲ停止ス家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ(中略)亦同シトアルヲ以テ該條ハ苟モ家資分散ノ宣告ヲ受ケタルトキハ抗告ノ有無及其結果如何ニ拘ハラズ直チニ公民權ヲ停止セラレタルモノト解セサルヲ得ス然レハ原告ハ町村制第九條第十二條及府縣制第六條第三十七條等ニ依リ其職ヲ失ヒタルモノナリ依テ被告縣參事會ノ裁決ハ相當ニシテ取消ス可キ限ニアラス

右ノ理由ナルニ依リ判決スル左ノ如シ

原告ノ請求相立タス

訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

●違法選舉取消ノ訴 明治三十五年第二百四十八號 明治三十五年五月五日 宣告 (請求不立)

判決要旨

町村制第十九條ニ規定セル七日ノ期間トハ選舉執行ノ日

ナ除キ公示ノ日ヨリ起算シテ七日ノ期間アルヲ要ス

說明

本件ハ說明ヲ要セス

原 告 靜岡縣磐田郡浦川村
三百四十六番地
澤内宗次郎

被 告 靜岡縣參事會
靜岡縣知事
山田春三

右當事者間違法選舉取消ノ訴原告ノ書面ニ就キ被告ノ陳述ヲ聽キ審理ヲ遂クル處

原告訴求ノ要旨ハ明治三十四年四月十一日磐田郡浦川村ニ於テ執行セシ村會議員定期半數改選ノ選舉會ハ不法ナルヲ以テ村會及ヒ郡參事會ニ訴願シ尙被告參事會ニ訴願シタルニ原告ノ訴願相立タスト裁決シタル依テ原告ハ之ニ服スル能ハス其理由ハ第一選舉權ハ獨立ニシテ他人ノ容喙ヲ許サ、ルモノナルニ本件選舉ニ關シテハ當該吏員ハ議員候補者ノ氏名ヲ記載シタル紙片ヲ豫メ選舉人ニ配付シ且選舉場内ニ於テモ前同様ノ紙片ヲ選舉人ニ配付シ以テ干渉ヲ爲シタル事ハ甲第一號證乃至第四號證ノ各證明書ニ依リ明カナレハ本件選舉ハ違法ナリ、第二本件訴願ノ裁決ヲ爲シタル村會ハ違法ノ選舉ニ當選シタル議員ノ會合ニシテ自家ノ資格ヲ自家ニ於テ決定シタルハ不當ナリ、第三本件選舉ノ場所及ヒ日時ハ村内各區一定ノ場所ニ揭示スヘキモノナルニ浦川村大字川合區揭示場ニ揭示

町村制第十九條ノ七日期間ノ起算點

ヲ爲サ、リシコトハ追加第一號證乃至第六號證ノ各證明書ノ如クナレハ町村制第十九條ニ違背スルモノト云ハサルヲ得ス被告ハ乙第一號證中條例第三號第二條ニ本村揭示場トアルハ浦川村ノ揭示場ヲ云フモノナリト主張スルモ本村揭示場トハ各區ノ揭示場ヲモ指スモノト解釋セサルヘカラス、第四町村制第十九條ニハ町村長ハ選舉ノ場所日時ヲ定メ選舉前七日ヲ限リテ之ヲ公告スヘシト規定シアリ然ルニ明治三十四年四月四日浦川村揭示場ニ公示ヲ爲シ同月十一日選舉ヲ執行シタレハ其間八日ノ日數アルニ依リ本件選舉ハ同條ノ規定ニ違背スルモノナリ以上ノ理由ナルヲ以テ被告ノ與ヘタル裁決ヲ取消シ本件選舉ヲ取消スヘシトノ判決ヲ求ムト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ本件選舉ニ關シ當該吏員カ議員候補者ノ氏名ヲ記載シタル紙片ヲ配付シタル事實ナシ假リニ其事實アリトスルモ尙ホ町村制ノ規定ニ牴觸スル所ナクハ本件選舉ハ無効トスヘキモノニアラス又選舉場内ニ於テ當該吏員カ選舉人ニ同様ノ紙片ヲ配付シ以テ選舉ニ干渉シタル事實ナシ、原告第二點ノ論旨ニ付テハ一旦議員トナリタル以上ハ其選舉力無効トナラサル限リハ町村制第三十七條ニ依リ村會ニ於テ訴願ノ裁決ヲ爲スハ至當ニシテ原告ノ主張ハ理由ナシ原告ハ大字川合區揭示場ヘ本件選舉ノ場所日時ヲ揭示セサルヲ以テ本件選舉ハ町村制第十九條ノ規定ニ違背セリト云フモ乙第一號證ノ如ク條例第三號即チ浦川村公文公告式條例第二條ニハ本村揭示場ニ揭示ストアリテ本村揭示場トハ浦川村ノ揭示場ヲ指示シタルモノニシテ浦川村各區ノ揭示場ヲ云フモノニアラ

ス乙第三號證ノ如ク浦川村揭示場ニ告示シタル以上ハ各區ニ告示セサルモ町村制第十九條ノ規定ニ違背スルト云フヲ得ス原告ハ四月四日公告ヲ爲シ同月十一日選舉ヲ執行シタルハ違法ナリト云フモ町村制第十九條ニ選舉前七日ヲ限リテ公告スヘシアルハ選舉執行ノ前日ヨリ起算シテ公告ヲ爲スヘキ決意ナレハ是亦毫モ違法ノ點ナキモノトス左スレハ原告ノ主張ハ一モ其理由ナキヲ以テ被告ノ裁決ハ相當ナルニ依リ原告ノ請求ヲ排斥セラレ度シト云フニ在リ

依テ判決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ
原告ハ當該吏員カ議員候補者ノ氏名ヲ記載シタル紙片ヲ選舉人ニ配付シ以テ本件選舉ニ關シタルコトハ甲第一號證乃至第四號證ニ依リ明カナレハ選舉ハ有效ニアラスト謂フモ該證ハ被告ノ認メサルモノニシテ孰レモ一個人ノ證明書ニ過キサレハ之ニ依テ原告主張ノ事實ヲ立證スルヲ得ス良シ此事實アリトスルモ是等ハ選舉ノ規定ニ毫モ牴觸スル所ナシ又選舉場内ニ於テ前同様ノ紙片ヲ選舉人ニ配付シ選舉ニ干渉シタリトノ原告主張ハ何等ノ視ルヘキ立證ナクハ此事實アリト認ムルヲ得ス又原告ハ違法ノ選舉ニ當選シタル村會議員ニ於テ本件訴願ヲ裁決シタルハ不當ナリト云フモ是レ唯村會ノ行爲ヲ非難スルニ過キスシテ本件選舉ヲ無効タラシムル理由トナラス又原告ハ大字川合區揭示場ニ本件選舉ノ場所及ヒ日時ヲ告示セサルハ町村制第十九條ノ規定ニ違背スルモノナリト云フモ乙第一號證條例第三號第二條ニ本村揭示場ニ揭示スルヲ以テ公告式トストアリ其本村揭示場トハ浦川村揭示

場ヲ指示シタルモノニシテ村内各區ノ揭示場ニ揭示シタル以上ハ大字川合區ノ揭示場ニ揭示セサルモ町村制第十九條ノ規定ニ違背ルトス云フテ得ス原告ハ四月四日ニ公告ヲ爲シ四月十一日ニ於テ選舉ヲ執行シタルハ町村制第十九條ノ規定ニ違背スルモノナリト云フモ同條ニハ選舉前七日ヲ限リ云々トアルヲ以テ選舉執行ノ前日ヨリ起算シテ七日ノ期間アルヲ要スヘキ注意ナルヤ明カナルヲ以テ原告ノ主張ハ理由ナシ以上ノ如ク本件選舉ハ違法ノモノニアラサルヲ以テ被告ノ裁決ハ相當ニシテ原告ノ請求ハ理由ナキモノトス

依テ判決スルコト左ノ如シ

原告ノ請求相立タス

訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

不當裁決取消請求ノ訴 明治三十五年第四十號 明治三十五年五月廿日判決 (請求不立)

判決要旨

滯納處分ニシテ不當ナリトスルモ其取消サレサル以前之ニ基キテ與ヘタル町會議員失職ノ決定ハ違法ニアラス

說明

凡ソ行政處分ハ相當官府ノ職權ニ基キ一旦之ヲ執行シタルトキハ行政監督ノ作用ニ依リ之ヲ取消スルハ完全ナル法律上ノ效力ヲ有ス蓋シ臣民ハ各人平等ノ間ニ於ケル私的關係ニ對シテハ法律ヲ按シ其ノ適不

適ヲ判斷スルノ權能ヲ有スト雖モ國權ノ作用ニ基シテ相當官府ノ行政爲ニ對シテハ其ノ適不適ヲ判決シ之ニ對シテハ其ノ適不適ヲ判決シ之ニ對スル義務アル結果ニシテ爲メニ偶々各人ノ權利益ヲ喪失スルコトアルヘキモ之レカ救濟ハ行政監督ノ作用ニ委スル外他ニ其方法ヲ求ムルヲ得サル所ナリ果シテ然ラハ本件ノ所謂違法ノ滯納處分モ之レカ取消ヲナサハ間ハ處分トシテ其ノ效力ヲ有スルカ故ニ之レニ基キテナシタル議員失職ノ決定モ亦タ其ノ效力ヲ有スルヤ勿論ナリトス

原告 北海道檜山郡江差町大字 碓町九十八番地 平民 海陸物産仲買業 加藤藤三郎

被告 北海道廳長官男爵 廣田安賢

訴訟代理人 北海道廳屬 太田 敏

右當事者間不當裁決取消請求ノ訴審理ヲ遂クノ處

原告陳述ノ要旨ハ明治三十四年七月中江差町長ハ原告ニ對シ明治三十三年後半期特別稅宅地割及三十四年度前半期營業稅附加稅息納者トシテ差押處分ヲナシタリ然レトモ原告行政處分ノ性質

ハ特別割ニ付テハ會テ納稅告知書及督促令狀ヲ受ケタルコトナク營業稅附加稅ニ付テハ納稅告知書ヲ配付セラレタルモ督促令狀ヲ受ケタルコトナキヲ以テ當然怠納者トシテ處分ヲ受クヘキニアラサルモ此期ニ及ンテ之ヲ拒ム道ナキニ依リ一時金圓ヲ納付シテ繼ニ公賣ヲ免レ監督官廳タル檜山支廳長ノ決定ヲ待テ權利ノ伸長ヲ圖ラントセシニ其後何等ノ沙汰ニ接セス而シテ原告ハ町會議員ナルニ町會ハ開カル、モ原告ニ對シテハ招集狀ヲ發セラレサルニ依リ明治三十四年八月甲第一號證ノ如ク檜山支廳長ニ對シ異議ヲ申立タルニ同年九月十八日甲第二號證ノ如ク失職ノ決定ヲ與ヘラレタリ因テ原告ハ一方ニハ右決定ヲ不當トシテ之ヲ取消ヲ被告ニ訴願シ一面ニハ檜山支廳長ニ不法處分取消ノ訴願ヲナセシニ甲第四號證及甲第五號證ノ如ク裁決セラレタリ是レ今回被告ニ對シ本訴ヲ提起スルニ至リタル事實ノ概要ナリ而シテ其理由ヲ述ヘンニ抑モ江差町長カ原告ニ對シ怠納處分ヲ執行シタル其特別稅宅地割ニ對シテハ會テ督促令狀ヲ原告ニ送達セスシテ執行シタルノ不當ナルコトハ甲第四號證ニ依リ明カナル所ニシテ被告モ亦「送達書ノ現存スルモノナキヲ以テ果シテ送達ヲ了シタルヤ否ヤ事實ノ認ムヘキナク」云々ト説明シテ暗ニ其不法ヲ認メナカラ一使丁上坂熊太郎ノ疏明ニ偏依シ之ヲ唯一ノ證據ト爲シタルハ不法ノ裁決ト謂ハサルヘカラス原告ハ特別稅宅地割ニ對スル江差町長カ不法處分ニ付テハ別ニ損害賠償ノ民事訴訟ヲ提起スル決心ナルヲ以テ爰ニ之ヲ論究スルヲ要セサレトモ營業稅附加ノ督促令狀送達ニ付テハ果シテ適法ノ送達ナリシヤ否ヤニ付論辯セサルヘカラ

八四

八五

ス督促令狀ノ規定ヲ按スルニ納稅告知書ニハ已ニ一定ノ納期ヲ定メタル督促令書ヲ發スルノ必要ナキカ如シ然ルニ立法官ニ於テ斯ノ如ク煩雜ナル手續ヲ設ケタルハ其理由ナカルヘカラス他ナシ國稅滯稅者トシテ處分ヲ受ケル者ハ直チニ公權ノ一部ヲ停止又ハ剝奪セラル、ニ至リ云ハ、人權ノ消長ニ至大ノ關係ヲ有スルカ爲メナルハ原告ノ言ヲ俟タス既ニ立法官カ之ニ重キヲ置キ鄭重ニシテ煩雜ナルニモ拘ハラズ此規定ヲ置キタルモノトセハ其送達モ必スヤ鄭重ニ爲サ、ル可カラサルナリ使丁上坂熊太郎カ營業稅附加ニ付テノ督促令狀ヲ原告ニ送達シタルト云フ疏明ヲ聞クニ原告ノ内縁ノ妻然カモ眼中一丁字ナキ婦女ニ送達シ己レ代リテ原告ノ姓名ヲ署シ之ニ捺印セシメタリト内縁ノ妻ナルモノハ民法上夫婦トシテ認メラレス又家族トシテ認メラレサルナリ唯原告ノ家ニ在リシモノト直ニ家族又ハ妻ナリト認メテ送達セリト云ハ、其送達ハ所謂送達ニアラスシテ令狀ヲ原告宅ニ抛ケ去リシニ異ナラス唯抛ケ去リシ行爲モ之ヲ適法ノ送達ト稱スルヲ得ハ明治三十年大藏省令ヲ以テ定メタル送達書雛形ニ規定シタル被送達者不在ノ場合ニ要スル手續ハ徒法ニシテ督促令狀ノ規定ハ殆ント無用ニ屬スルナリ縱シヤ原告家ニ在リシ婦人果シテ妻ナルカ家族又タ雇人ナリトスルモ使丁ハ原告ノ姓名ヲ代署シ之ニ捺印セシムルヲ得ス必スヤ其事由ヲ附記シテ送達セサルヘカラス然ルニ被告ノ裁決ニハ「假ニ形式ニ缺クル所ナキニアラスト雖モ之ヲ以テ全ク送達ヲ受ケスト云フヲ得ス」ト説明セラレタリ若シ形式ニ違フモ之ヲ適法ノ送達ナリト云ハ、單ニ原告ノ留守宅ニ抛ケ去リシ行爲モ適法

行政處分ノ性質

百六十三

ノ送達ト云ハサル可カラス原告ハ信ス形式ニ違フタル送達ハ送達トシテ効力ヲ有セス假
ニ送達ノ有效無効ニ付テ確定タル法律ナシトスルモ立法官ニ於テ督促令狀送達ノ手續ヲ
規定シテ人權ノ消長ニ重キヲ置キタル以上ハ其送達ヲ適法ニ解釋シ形式ニ缺ケタル送達
ハ送達トシテ効力ヲ有セスト言ハサル可カラス是レ立法ノ精神ナリ以上ハ使丁カ原告ノ
家ニ在リシ婦人ニ送達シタリト云ヘルヲ事實ナリト假定シテ論述シタル所ニシテ實際ノ
事實ハ然ラス原告不在中家族ニ於テ右等ノ送達ヲ受ケタル者ナシ願フニ使丁ハ原告宅ニ
送達スルコトヲ遺忘シ他日ニ至リ其責ヲ免ル、爲メ送達書ニ不法ノ記入ヲ爲シ何人カテ
シテ捺印セシメ事實ヲ捏造セシカ又ハ江差町長カ何等カノ事情ヨリ原告ヲ失職セシメシ
爲メ使丁ヲシテ事實ヲ捏造セシメ遂ニ原告ヲ陥レタルモノニ外ナラサルヘシ是實ニ原告
ノ妄想ニアラスシテ此疑ヲ惹カシムルハ現ニ江差町長カ原告ニ對シ特別税宅地割ニ付テ
督促令狀ヲ送達セスシテ執行處分ヲ爲シタルニ徴シテ明カナリ然リ而シテ被告ノ答辯ニ
依レハ被告ハ本件ハ町長ノ執行セシ滞納處分取消ノ訴願ナキヲ以テ直ニ本訴ニ及フハ不
法ナリト云フモ滞納處分公民失權議員失權ハ實質上關連シテ分離スヘカラサルモノナリ
故ニ檜山支廳長カ原告ノ失權決定ヲ爲スニ付テハ町長ノ滞納處分適法ナリヤ否ヲ調査セ
サルヘカラス而シテ其決定ノ當時ハ滞納處分未タ確定シ居ラサレハ失權決定ノ確定セサ
ル間ハ滞納處分ノ確定ハ之カ爲メ期間ヲ中止セラレサルヘカラス加之此分離スヘカラサ
ル一部ニ對シテ訴願アリタルトキハ殊更別々ニ數個ノ訴願ヲナスヲ要セス其關連シタル

部分ニ付テハ審理セラルヘキモノナリ故ニ滞納處分ニ對スル訴願ナキヲ理由トシテ本訴
ヲ排斥スルヲ得ヌ又被告ハ町役場ニ備ヘアル督促令狀送達證ハ有效ニ成立シタルモノナ
リト主張スルモ使丁上坂ノ作成シタルモノニシテ信ヲ措クニ足ラサルノミナラス其自白
スル所ニ於テモ妻ニ送達シタルニ原告自身ノ名ヲ署シアリテ證書自體カ虛偽ナルコトヲ
示セリ假ニ之ヲ正當ノモノトスルモ滞納處分ハ司法事務ヲ行政官公吏ニ委任シタルモノ
ナレハ之ヲ爲ス最モ嚴格ナラサルヘカラス然ルニ送達證書ノ自體カ虛偽ヲ示セル如キモ
ノヲ以テ執行處分ノ基本トナスカ如キコトアルヘカラス即納稅告知書ノ如キハ送達證書
ヲ作成セサルカ故ニ例令之ヲ受領シタルコト明カナル場合ニ於テモ執行ヲナスヘカラサ
ルモノナルト同シク督促令狀モ送達ノ適法ニシテ且明確ナル場合ノ外執行ヲナスヘカラ
サルナリ而シテ本件ノ送達證書ハ假ニ其成立ヲ認ムルモ只督促令狀ヲ送達シタルナラン
トノ想像ヲナシ得ヘキニ過キサレハ之ニ基ク執行ノ不適法ナル論ヲ俟タス以上ノ次第ナ
レハ本件ニ對スル被告ノ裁決並ニ江差町長ノ執行シタル明治三十四年度前半期營業稅附
加稅ニ付テノ執行處分ヲ取消シ原告ハ町會議員失職者ニアラストノ裁決ヲ乞フト云フニ
在リ

被告答辯ノ要旨ハ原告ハ江差町明治三十四年度營業稅附加稅ニ付テハ江差町長ヨリ督促
令狀ヲ受ケタルコトナキヲ以テ明治三十四年七月二十二日江差町長ニ於テ執行シタル滞
納處分ハ違法ノ處分ナリト云フト雖モ明治三十四年度江差町營業稅附加稅ニ付テハ江差

町長ニ於テ明治三十四年六月二十六日使丁上坂熊太郎ヲシテ督俗令狀ヲ送達セシメタルハ別紙第一號證ノ江差町役場備付ノ町稅徵收原簿及別紙第二號證督促令狀送達書ニ徵シ明瞭ナリ而シテ一級町村制第九十條ニ依リ滿納處分ヲナス場合ハ町村長ハ國稅ノ滿納處分ニ關スル規定ニ依ルヘキモノニシテ國稅徵收法第九條ニハ納期內ニ税金ヲ完納セサルトキハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシトアリ又同第三十條ニハ滯納ニ關スル書類ハ名宛人ノ住所又ハ事務所ニ送達スヘキヲ規定セリ本件ノ場合ニ於テハ町長ハ是等ノ規定ニ依リ適法ノ手續ヲ爲シタルハ明カナル事實ナリ而シテ使丁カ之ヲ原告ノ住所ニ送達シタルトキ原告不在ナルヲ以テ原告ノ妻ナル者ニ送達シタルニ其妻ナルモノハ自書スル能ハサルノ故ヲ以テ使丁カ原告ノ姓名ヲ代書シ之ニ捺印セシメタルモノナリ此送達書ノ形式ハ國稅徵收法施行細則第十八條ノ書式ニ對シ欠ケタル所ナキニアラスト雖モ其欠點タル只受取人ノ本名ヲ記載セサルト且ツ使丁カ之ヲ代書シタルトニ止マリ捺印ハ受取人タル原告ノ妻カ之ヲ爲シタルモノナレハ單ニ其形式上ノ欠點ヲ以テ督促令狀送達ノ效力ヲ消滅セシムヘキニアラスト何トナレハ國稅徵收法第三十條第二項ニ依レハ名宛人ノ住所ニ於テ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ住居ノ不明ナルトキハ通知ノ趣旨ヲ公告スヘキコトヲ規定セルモ受取人ノ自署シ能ハサル場合ニ付テハ何等ノ規定ナキヲ以テ此場合ニ於テ全ク送達ヲ爲シ能ハサルモノト云フヲ得ス然ラハ受取人カ自署シ能ハサル場合ニ於テ送達人カ代書スルハ亦已ムヲ得サルナリ只本件ノ場合ニ於テ受取人タル妻ノ名ヲ署セスシテ原告ノ名

ヲ署シタルハ聊カ欠點ナリ然レトモ受取人カ明カニ之ニ捺印ヲナシタルヨリ見レハ送達ノ實質上ノ效力ニ於テハ更ニ欠クル所ナキハ明カナリ然ルニ原告ハ此形式上ノ欠點ヲ理由トシ送達書ハ何人カヲシテ捺印セシメ事實ヲ捏造セシモノナリト云フト雖モ町役場タル行政廳ニ於テ督促令狀ヲ送達シタルハ獨リ原告ノミニ限ラス而シテ他ノ納稅者ニ對シテハ使丁ハ悉ク令狀ヲ送達セルヨリ見レハ獨リ原告ニ對シテノミ送達ノ手續ヲ省略スルノ事由ヲ認ムルヲ得ス且ツ當時ノ事情ニ徵スルモ別紙第三號證江差町長ヨリ楡山支廳長ニ提出シタル上申書記載ノ如ク同町ニ於テハ營業稅附加稅其他ノ町稅ノ滯納處分ヲ勵行スルノ必要ニ迫リ着々其處分ヲ實行シツ、アリシモ獨リ原告ハ身町會議員ノ職ニアルヲ以テ原告ニ對シ滯納處分ヲ執行スルトキハ一級町村制第六條ニ依リ公民權停止ノ制裁ヲ受クルモノナルヲ以テ原告ニ對シテ其處分ヲ猶豫シ好意上吏員ヲ其居宅ニ派シ之カ納入ヲ促スコト一再ニ止マラサリシハ明白ノ事實ナリ然ルニ原告ハ尙ホ依然トシテ納付セサルノミナラス他人ニ對シ自己ノ滯納ニ對シテハ町役場ニテハ如何トモ爲ス能フマシ又ハ他ノ滯納者ニ對シテハ町稅ノ如キハ俄ニ之ヲ納ムルヲ要セス自己ノ力ニテ之ヲ減免セシナト滯納ヲ煽動シタルヤノ噂ハ被告ニ於テモ頻々耳ニセシ所ナリ然ルニ原告ニ對シテノミ滯納處分ヲ猶豫セシヨリ役場ノ處置公平ヲ欠クモノナリトノ聲町民間ニ喧傳スルニ至リタルヲ以テ明治三十四年七月十七日町役場書記カ其處分ニ着手シタルニ原告ハ甚々穩當ナラサル言動ヲ以テ之ヲ迎ヘ種々陳辯ノ末結局三日間ノ納稅猶豫ヲ乞ヘリ依テ原告ニ

對シテハ滯納處分ニ依ラサルヲ便トシ之ヲ延期シタルニ尙六日ヲ經過スルモ依然納付ノ手續ヲ爲サ、ルニ依リ同年七月二十二日町役場書記ヲシテ之カ處分ヲ爲サシメタルモノニシテ以上ノ事實ニ依ルモ原告ハ督促ヲ受ケタル事實ヲ知ラサルモノニアラス再三督促ヲ受ケ而カモ納付ノ手續ヲ爲サス而シテ今ニ至リ單ニ送達書形式上些少ノ瑕疵アルヲ口實トシテ滯納處分ノ取消ヲ請求スルハ甚タ不當ナリ以上ノ如ク役場吏員カ好意上特ニ再三督促ノ手續ヲ爲シタルヨリ見ルモ原告ニ對シテ殊ニ督促令狀送達ノ手續ヲ省察スルノ理由ナク且ツ假令其送達書ハ形式ニ於テ欠クル所ナキニアラスト雖モ送達書ノ一通ハ督促令狀ト共ニ之ヲ受取人ニ渡シタルノ事實ハ使丁ノ明言セル所ニシテ原告カ今更其事實ヲ非認スルハ恰モ役場ニ於テ徵稅傳令書ヲ發シタル後ニ於テ納稅者ハ之ヲ受取リタル事實ナシト主張スルカ如ク是レ等ハ納稅者ハ自由ニ主張シ得ル所ナルモ其主張ハ何等ノ效力ナキト等シク原告カ督促令狀及ヒ送達書ノ一通ヲ取受リタルコトナシト云フハ毫モ信據スルニ足ラサルヲ以テ滯納處分上何等影響スル所ナキナリ故ニ明治三十四年度營業稅附加稅金一圓ニ對シテハ國稅徵收法ノ規定ニ依リ適法ニ滯納處分ヲ執行シタルモノト認ム次ニ原告ハ江差町會議員失職ノ決定ヲ不當トスルモノ之ヲ不當トセンニハ先ツ其原因タル滯納處分ノ取消ヲ求ムルコト至當ノ順序ナルヘシ何トナレハ行政廳ニ於テ不當ノ滯納處分ヲ執行シタルトキハ明治二十三年法律第五號訴訟法ニ依リ上級行政廳ニ訴願スルヲ得ルノミナラス同年法律第六號ニ依リ行政訴訟ヲ提起シ得ルモノナリ故ニ滯納處分

ノ執行方法ニ關シ不當ノ處置アルトキハ法律ハ充分ニ之ヲ救済スルノ途ヲ開キ居レリ然ルニ原告ハ滯納處分ノ當否ニ關シテハ會テ訴願訴訟ヲ提起シ之カ取消ヲ求メタルコトナシ是ヲ以テ之ヲ觀レハ原告ハ甘ンシテ其滯納處分ニ服從シタルモノト認ムルノ外ナシ而シテ原告ニ對スル明治三十四年度營業稅附加稅ノ滯納處分ハ訴願訴訟ノ結果之ヲ取消サル、ニアラサレハ其效力ヲ失フモノニアラス又公民權停止ノ事實ハ滯納處分其物ヲ取消スニアラサレハ決シテ消滅スヘキ理由アラサルナリ故ニ本件請求ハ其順序ヲ顛倒スルモノナリ以上ノ如クナレハ原告ノ請求ハ排斥セラレタシト云フニ在リ

依テ本件裁判ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

原告ハ明治三十四年度前半期營業稅附加稅ノ納付ニ付會テ督促令狀ヲ受ケタルコトナシ故ニ町長カ明治三十四年七月二十二日原告ニ對シ爲シタル滯納處分ハ無効ノモノニレテ隨テ檜山支廳長カ之ヲ理由トシ原告ヲ町會議員失職者ト決定セシハ違法ナリト云フト雖檜山支廳ニ於テ右決定ヲ爲シタルハ江差町長ニ於テ原告ニ對シ滯納處分ヲ執行シタル事實アルニ據リ爲シタルモノナレハ適法ノ處置ト謂ハサルヘカラス而シテ其滯納處分ノ適法ナリヤ否ハ原告ニ於テ之ニ付訴願ヲ爲サルニ依リ裁定ヲ下タスヘキ限ニアラス

右ノ理由ナル以テ判決スル左ノ如シ

原告ノ請求相立タス

訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

●不當處分取消ノ訴 明治三十四年第二百八十一號 明治三十五年五月七日判決 (請求不立)

判決要旨

府縣會カ府縣ノ豫算ニ對スル職權ハ單ニ豫算案ニ基キ之
レヲ議決スルニ止マリ豫算案ノ改造ヲ求ムルノ權ヲ有セ
ス

說明

府縣會ハ府縣ノ歳出歳入ノ豫算ニ對シ議定權ヲ有ス凡ソ議事機關カ豫算
ニ對シテ享有スヘキ議定權ナルモノハ大體ニ於テ之レヲ二個ニ已別スル
ヲ得ヘシ一豫算ノ原案ニ付キ賛否ヲ決スルコト即チ豫算ノ原案ヲ其ノ儘
協參スルカ又ハ原案全體ニ對シテ之ヲ否決スル乎換言セハ豫算全部ニ付
キ賛否ヲ決スルノ權ニ豫算ノ原案ニ對シ削殘ヲ加フルノ權是ナリ要之ニ
豫算議定權ハ以上ノ範圍ニ止マリ其以外ニ之レヲ認メサルヲ以テ國法上
ノ原則トナス府縣會カ府縣ノ豫算案ニ對スル議定權モ亦タ特別ノ明文ナ
キ代リハ此ノ原則ニ支配セラルヘキハ當然ナルカ故ニ豫算改造ノ權ヲ否
定スル本判決ノ正當ナルヤ知ルヘキナリ

(參照) 府縣會ハ府縣ノ公益ニ關スル事件ニ付意見ヲ府縣知事若ハ内務大臣ニ呈出スルコトヲ得(府縣制第四十四條)

原告 大分縣會議長 水之江 文二郎

被告 大分縣知事 大久保 利武

右當事者間不當處分取消ノ訴審理ヲ遂クル處

原告陳述ノ要旨ハ第二「府縣制第四十一條第一項ニ歳入出豫算ヲ定ムルコト」トアリ故ニ
豫算ヲ定ムルハ府縣會ノ職責ニシテ該豫算ヲ定ムル爲メノ豫算案即原案其物カ府縣制第
七十九條ノ精神ニ背反シタル案ナルヲ以テ之ヲ改造スヘキ請求ヲ爲スハ相當ノ手續ニシ
テ法律上豫算ヲ定ムル權能ノ範圍内ナリト謂ハサルヘカラス從テ議案訂正ヲ請求スルノ
決議ヲ爲シタルハ相當ニシテ此議決ヲ取消シタルハ不法ナリ第二被告ハ縣會ニ呈出スル
ニ參事會ノ查定案ニ同意ノ意見ヲ以テセルハ唯原案執行ノ意思ナキヲ說明セルニ過キス
シテ查定案ニ同意ヲ表シタルモノニアラスト云フモ原案ヲ執行スルト否トハ被告タル知
事ノ職權ニ屬シ知事ハ唯縣會ノ議決ヲ待テ始メテ之ヲ行フヘキモノニシテ縣會ノ參與ス
ヘキモノニアラサルコト論ヲ待タス故ニ被告ハ縣會ノ議決ニ先ツテ原案ヲ執行スルヤ否
ヤニ關スル意見ヲ縣會ニ呈出スヘキ理由アルヘカラス殊ニ被告ハ議案ヲ縣會ニ提出スル
前之ヲ縣參事會ニ提出シ先ツ查定案ニ向ツテ同意不同意ヲ定メ同意ナラハ更ニ原案ヲ改
メ不同意ナラハ參事會ノ意見ヲ添ヘテ之ヲ縣會ニ提出セサルヘカラスハ制第七十九條
ノ明定スル所又判決ノ已ニ一定スル所ナリ故ニ同意カ不同意カ被告ハ必ス其一ヲ撰ハサ

豫算議定權ノ性質

ルヘカラス同意ニシテ而シテ不同意不同意ニシテ而シテ同意是法律上相互ニ容ルヘカラサルノ事能ナリ第三前項ノ點ニ就テハ假ニ一步ヲ譲リテ之ヲ論スルモ本件爭點ハ被告カ縣會ノ建議ヲ採用スヘキモノナルヤ否ヤニアラスシテ縣會カ之ヲ建議スルノ權能アリヤ否ヤニ在リ抑制第七十九條ニ依リ參事會ニ提出セラレタル議案ニ就キ知事ニ於テ其査定ニ同意シタルトキハ一旦原案ヲ改定シテ之ヲ縣會ニ提出スルハ數年來ノ慣例ナリシハ被告ノ爭ハサル所ニシテ而シテ被告カ縣會ヲ知事一旦改定シタル原案ヲ原案トシテ議セシメタルモ亦爭ハサル所ナルヘク從テ縣會カ知事ノ一旦改定シタル原案トシテ議スルノ權限アルコトハ亦被告ノ爭フ能ハサル所ナルヘシ果シテ然ラハ縣會カ知事ノ一旦改定シタル原案トシテ議スヘシトスル建議案モ亦當然縣會ノ權限内ニ屬セサルヘカラス然レハ其建議案ヲ採用スルト否トハ知事ノ職權ナリトスルモ縣會ニ此權限ナシトシテ建議案ノ決議ヲ取消シタルハ其不法ナルコト論ヲ待タス第四被告ハ原告ノ行為ヲ以テ制第十八條及第七十八條ノ知事ノ豫算調製權及議案發案權ニ容喙スルモノトスルモ本件ハ縣會カ自ら進テ議案ヲ調製シタルモノニモアラス知事ノ原案ヲ議セスト決議シタルモノニアラス又其決議ハ一ノ建議ニシテ法律上何等ノ制限ヲ知事ノ權限ニ加フルモノニモアラサレハ之ヲ以テ直ニ被告ノ這般ノ權利ヲ害シタルモノト云フヘカラス第五假ニ數步ヲ譲リ以上第一乃至第四ノ理由ハ一モ其當ヲ得サルモノトスルモ事ノ公益ニ關スルモノニ付テハ縣會ハ一般ニ知事ニ其意見ヲ建議スルノ權利アルハ制第四十四條ノ明定

スル所ナリ而シテ本件ノ建議カ公益ニ關スル事項ナルコトハ被告亦之ヲ拒ムコト能ハサル所ナルヘシ然ラハ則此一點ヨリスルモ被告カ建議案ノ決議ヲ取消シタル處分ノ不當ナルコト又辯ヲ待タサルヘシ以上ノ次第ナレハ被告ニ於テ大分縣會カ爲シタル明治三十三年度豫算案改造請求ノ決議ヲ取消シタルハ不法ノ處分ナルニ依リ之ヲ取消サレタシト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ第一原告ハ三十四年度通常縣會ニ提出シタル豫算案ハ被告カ參事會意見ニ同意シタルモノ之レヲ修正セシ議案ヲ改造セシテ云々ト云フモ被告ハ決シテ參事會意見ニ同意シタルモノニアラス即チ參事會ト意見ヲ異ニシメルヲ以テ府縣制第七十九條ニ依リ同會ノ意見書ヲ該豫算案ニ添附シ提出セリ之レ其同意セサル事實ノ明瞭ナルモノトス第二原告ハ參事會意見ニ同意シテ差ナシト記載セル印刷物ヲ以テ直ニ參事會意見ニ同意シタルモノ、如ク思惟スルモ決シテ然ラス參事會意見ニ同意セサルカ爲メ前第一ニ陳述ノ如ク參事會意見書ヲ豫算案ニ添付シ提出セリ若シ夫被告ニ於テ參事會意見ニ同意セハ何ソ夫レ該意見書ヲ添附シ提出スルノ要アラザヤ如此被告ハ參事會意見ニ對シテハ絶對的ニ之ヲ採用セス即チ反對ノ意見ナルモ參事會意見中縣會ニ於テ第二讀會ヲ開クニ至リ參事會意見カ修正動議トシテ提出セラレ、場合ニ際シタルトキハ敢テ之ニ反對セシ同意スルモ施政上差支ナシト思惟セラル、部分ニ對シ議員參考ノ爲メ委任官吏ヲシテ指示セシメタル迄ナリ故ニ之ヲ以テ直ニ同意シタルモノト云フハ誤解タルヲ免レス其印

刷物ノ如キハ便宜上該委任官吏ノ指示シタル廉ヲ記シ參考ノ爲メ縣會議員各人ニ配付シタルニ過キス第三原告ハ參事會ノ意見ニ同意シタルモノハ之ヲ改造シ參事會ト意見ヲ異ニスルモノニ限リ其意見書ヲ議案ニ添附シテ提出シ來リタル慣例ナリト云フモ該慣例ハ之ヲ本件ノ事實ニ適用スルヲ得ス何トナレハ從來ノ取扱ニ於テ同意シタルモノハ改造シ提出シタルノ例ナルモ本件參事會ノ意見ニ對シテハ同意シタルモノニアラサルヲ以テ之ヲ改造スルニ由ナク從テ從來ノ慣例ヲ適用スル能ハサルナリ之レ獨リ從來ニ限ラス將來ト雖モ同意セサルモノニ對シテハ到底之ヲ改造スル能ハサルヘシ第四原告ハ府縣制第四十一條第一號ニ豫算ヲ定ムルコト、アルヲ以テ豫算案改造ノ請求ヲナスコトモ本號ニ依リ議決シ得ヘシト云フモ議案改造ノ請求ハ以テ豫算ヲ議決スルモノニアラス其豫算ヲ定ムルト云フキ知事ノ豫算案調製權ニ依リ發案シタル豫算案其物ニ對シ議決スルノ謂ナルヲ以テ二者大ニ區別アリ決シテ之ヲ同一視スヘキモノニ非ス又原告ハ本件請求ハ公益ニ關スルモノニシテ府縣制第四十四條ノ明定スル建議ナリト云フモ同條ニ所謂公益ニ關スル事件トハ此等ヲ謂フモノニアラス要スルニ本件原告ノ議決ハ法律命令ヲ以テ許容セラレタルモノニアラサレハ越權ノ議決タルヲ免レス被告力之ヲ取消シタルハ正當ナリト云フニ在リ

依テ本件裁判ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

第一原告ハ被告ハ乙第一號證ノ如ク參事會意見ニ同意ヲ爲シタルニ拘ハラズ豫算ヲ改造セ

サルハ從來ノ慣例即府縣制第七十九條ノ精神ニ背キタルモノナリト云フト雖乙第一號證ノ記事ハ其全體ヨリ見レハ同意シ差支ナキ旨ヲ述ヘタルモノニシテ寧ロ同意ヲ爲サ、ルノ證トシテ見ルヘキノミナラス甲第二號證ノ二ニ依レハ被告力該案ヲ提出スルニ當リ參事會意見ヲ添附シタルヲ明カニシテ以テ其同意ヲ爲サ、ルヲ認ムヘク隨テ被告ハ慣例ニ背キタルモノト謂フヲ得ス第二原告ハ府縣制第四十一條第一項ニ豫算ヲ定ムルコトアリ故ニ豫算案法律ノ精神ニ背キタル場合ニ於テ其改造ノ請求ヲ爲スハ豫算ヲ定ムル權能ニ屬スル者ナリト云フト雖豫算ヲ定ムトハ豫算案ニ就キ豫算ヲ議定スルノ謂ヒニ過キスシテ該請求ノ如キハ之ニ包含スルモノニアラス又原告ハ本件請求ハ府縣制第四十四條ニ許サレタル建議ナリト云フト雖單ニ豫算案ノ形式ヲ論争スル該請求ノ如キハ同制第四十四條ニ所謂公益ニ關スルモノトシテ之ヲ認ムルヲ得ス故ニ被告力越權ノ議決トシ之ヲ取消シタルハ不當ニアラス

右ノ理由ナルヲ以テ判決スルコト左ノ如シ

原告ノ請求相立タス

訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

民有地引戻ノ訴

明治三十四年第二百八十四號
明治三十五年五月廿七日宣告

(棄却)

判決要旨

村長ト村民トノ關係

往昔一村ノ所有ニ屬セシモ其後之レヲ分割シテ村民各自ノ所有ト爲シタリト主張スル山林ニ對シ村長ヨリ之レカ引戻ノ訴ヲ提起スレハ不當ナリ

說明

村長ハ村タル一ノ法人格ヲ代表シ各一私人ヲ代表スルモノニアラス換言セハ村長ハ村民ノ總代ニアラスシテ村タル自治團體ノ代表者タリ村民各自ノ所有ナリト主張スル山林ノ引戻ニ關シ村長カ之レヲ代表スヘキモノニアラサルノ理自ラ明カナルヲ知ルヘキナリ

原告 山形縣東村山郡高瀬村大字 上東山代表者同村長 安孫子惣治 訴訟代理人 同村助役 石山善次郎
被告 農商務大臣男爵 田 東 助 訴訟代理人 元 田 隆

右當事者間ノ民有地引戻ノ訴訟審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ
本訴ハ之ヲ棄却ス

訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

理由

原告ハ山形縣東村山郡高瀬村大字上東山字中澤山ノ内小字深澤、夫婦坂、八ヶ澤ナル官林

ヲ以テ往昔原告上東山ノ共有ナリシテ文政年度村民ニ分割シテ各自ノ所有ト爲シ納租ノ義務ヲ盡シ自由ニ進退致シ來リタルモノナリトシ之ヲ原告上東山ニ下戻スヘシトノ判決ヲ請求シ甲第一號乃至甲第五號證及ヒ追第一號證乃至追第六號證ヲ提出シ被告ハ本訴山林ヲ原告カ所有シタル事實ヲ認メス且假リニ本訴山林ハ元ト原告ノ所有ナリシモノトスルモ文政年度原告村民分割シテ各自ノ所有ト爲シタルモノナレハ上東山ノ代表者タル村長ニ於テ訴ヲ爲スハ不當ナルヲ以テ此點ニ於テ本訴ハ却下セラルヘキモノナリト答辯セリ
按スルニ本訴ノ山林ハ假リニ原告主張ノ如ク元ト原告上東山ノ所有ナリシモノトスルモ原告ニ於テ文政年度之ヲ分割シテ村民各個ノ所有ト爲シタリト申立ツル上ハ上東山ノ代表者タル村長ヨリ本訴ヲ提起スルハ其當ヲ得サルモノトス依テ主文ノ如ク判決ス

●恩給請求權不法否認取消ノ訴 明治三十五年第十三號 明治三十五年五月卅一日宣告 (請求不立)

判決要旨

退官ノ際在官滿十五年ニ亘ル者ハ其ノ退官前懲戒處分ニ依リ免官セラレタルコトアルトキハ恩給ヲ受ルノ權ヲ有セスト雖モ明治三十年勅令第十四號ヲ以テ其ノ以前ニ於ケル凡テノ懲戒懲罰ヲ免除シタルノ結果懲戒免官以前ノ

恩給請求權ノ喪失

年數ヲ算入シテ恩給ヲ受クルノ權利ヲ得タルモノトス然
レトモ此ノ權利ハ現ニ在官中ナリト否トテ問ス該勅令發
布ノ日ヨリ三ヶ年內ニ退官當時ノ本屬長官ニ對シ恩給ノ
請求ヲナスニアラスンハ享有セス

百七十八

說明

本件判決ノ理由ハ判文ニ詳カナルカ故ニ茲ニ再說セス

(參照) 左ニ掲ケル月數及日數ハ在官年數中ヨリ除算スヘシ(中略)六、自己ノ便宜ニ依リ退官シタル後又ハ懲戒處分若
クハ刑事裁判ニ依リ免官シタル後再任官シタル者ニ在テハ其前官ノ日數(官吏恩給法第九條)

明治三十年一月十二日前ニ於テ懲戒又ハ懲罰ニ依リ免官免職セラレタル者並ニ停職ヲ命セラレタル者ハ其ノ懲戒懲罰
ヲ免除ス(明治三十年勅令第十四號)

恩給ハ之ヲ受クヘキ事山ノ生シタル後三箇年內ニ請求セザレハ其權利ヲ拋棄シタルモノトス(官吏恩給法第十六條)

官吏恩給法第二條第三條第六條及第七條第二項第十四條第二項ニ依リ恩給ヲ受クヘキ者ハ恩給請求書ヲ退官當時ノ本
屬長官ニ差出スヘシ但廢官廢職ニ當リタルトキハ其事務ノ引繼ヲ受ケタル官廳ノ長官ニ差出スヘシ(官吏恩給法
施行規則第一條)

原告 愛知縣名古屋市桶屋町
三丁目三十番戶土族
柿崎干城
訴訟代理人 (清水市太郎
西村新八郎)
被告 內閣恩給局長
奧田發人
訴訟代理人 (內閣恩給審査官
田口乾三)

八四

右當事者間ニ於ケル恩給請求權不法否認取消ノ訴審理ヲ遂ケ判決スル左ノ如シ
原告ノ請求相立タス

八五

理由

訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

原告ハ明治三十年勅令第十四號發布ノ當時ニ在リテハ埼玉縣警部奉職中ナルヲ以テ官吏恩
給法第二條ニ依リ未タ恩給ヲ受クヘキ事由ノ發生セザルモノトス而シテ其事由ノ發生シタ
ルハ同年五月一日日本官ヲ免セラレタル時ニ在リ故ニ官吏恩給法第十六條ニ依リ其時ヨリ三
箇年內ハ恩給ヲ請求スヘキ權利ヲ有ス又退官後三箇年內ニ更ニ任官スルコトアルトキハ其最
終ノ退官後三箇年內ハ恩給請求ノ權利アリト解釋スルヲ恩給法ノ精神ヲ得タル者トス何ト
ナレハ恩給ノ請求ヲ爲シテ恩給證書ノ下付ヲ求ムルハ恩給ノ支給ヲ受ケンカ爲メナリ然ル
ニ在官中ハ恩給ヲ停止セラル、者ナレハナリ要スルニ在官中恩給證書ノ下付ヲ請求ス可シ
ト爲スハ恩給請求ノ趣旨ニ反スル無用ノ行爲ヲ爲ス者ニシテ之ヲ爲サルカ爲メニ其權利
ヲ失フノ理由ナシト主張シ被告ハ原告ニシテ勅令第十四號ノ恩典ニ浴セント欲セハ北海道
廳警部退官ヲ基因トシ勅令發布ノ日ヨリ三箇年內ニ請求セサル可カラス若此請求ヲ爲セシ
ナラハ原告ハ明治二十六年七月北海道廳警部退官ノ翌月ヨリ同年十一月愛媛縣警部任官
迄ニ對スル恩給金額ヲ受ケ得ベク其後ノ退官ニ對シテハ官吏恩給法第十一條ノ規定ニ從ヒ
増加金額ヲ受クヘキモノナラン然ルニ原告ハ奉職中ハ恩給ヲ受クル事由發生セス其事由ノ

恩給請求權ノ喪失

百七十九

發生シタルハ明治三十年五月一日埼玉縣警部ヲ免セラレシ時ニ在リト自己ノ解釋ヲ以テ北海道應退官ノ當時ニ遡リ請求ヲ爲サ、リシニ由リ右退官ニ對シテハ自ラ權利ヲ拋棄シタル者ト見做サレタルナリ又原告ハ恩給證書ノ下付ヲ求ムルハ恩給ノ支給ヲ受クソカ爲メナリ然ルニ在官中ハ恩給ヲ停止セラル、モノナレハ云々ト申立ツルモ北海道應退官ノ翌月ヨリ愛媛縣警部任官迄三個月餘ハ明カニ恩給ヲ受クヘキ時日ナリト答辯セリ

之ヲ按スルニ原告ハ明治二十六年七月北海道警部退官ノ際既ニ在官滿十五年以上ニ該當スル者ナルモ其退官前即チ明治十六年六月懲戒處分ニ依リ鹿兒島縣警部ヲ免セラレシアルヲ以テ官吏恩給法第九條ニ依リ其懲戒免官以前ノ在官年數ハ除算セラルヘキ者ナレハ北海道應退官ノ際ハ恩給ヲ受クルノ權ヲ生セサリシナリ然ルニ明治三十年勅令第十四號ノ發布ニ依リ懲戒處分ヲ免除セラレタルヲ以テ原告ハ此恩典ノ爲メニ北海道應退官當時ニ遡リ恩給ヲ受クヘキ權利ヲ得タルモノトス故ニ原告ノ恩給ヲ受クヘキ事由ヲ生シタル時期ハ右勅令第十四號發布ノ日ニ在ルヲ以テ官吏恩給法第十六條及官吏恩給法施行規則第一條ノ規定ニ從ヒ其發布ノ日ヨリ三箇年內ニ退官當時ノ本屬廳ノ長官タル北海道廳長官ニ對シテ恩給ノ請求ヲ爲サル、可カラス然ルニ原告ハ勅令第十四號發布ノ當時ハ埼玉縣警部奉職中ナルヲ以テ未タ恩給ヲ受クヘキ事由ノ生セサルモノナリト主張スト雖勅令發布ニ依リ既ニ恩給ヲ受クヘキ事由ノ生シタルトキハ前說明ノ如クナルノミナラス官吏恩給法第十六條ノ規定ハ一般恩給請求者ニ適用スヘキ規定ナルコトハ明文上疑ナキヲ以テ一旦退官ノ

後再ヒ任官奉職ノ者ニ對シテモ尙之ヲ適用スヘキ規定ナリト解釋セサルヘカラス故ニ原告カ明治三十年五月ノ埼玉縣警部退官ヲ理由トシテ初メテ任官シタル明治八年八月以來滿十五年以上任官シタルモノトシテ明治三十三年四月二十九日埼玉縣知事ニ恩給ノ請求ヲ爲シタルハ法定ノ期間ヲ失シ且適法ノ手續ニ背キタル行爲ナリトス隨テ原告ハ恩給ヲ請求スル權利ナキモノトス依テ主文ノ如ク判決ス

山林境界訂正ノ訴 明治三十五年第六號
明治三十五年五月十二日宣卷 (棄却)

判決要旨

山林境界誤謬訂正願ノ聞届ケニ依リ引渡ヲ受ケタル地所ノ面蹟不足ナリトシ其ノ殘地ノ引渡ヲ請求スルハ土地ノ官民有區分ノ査定ニ關スル事件ニアラス又タ斯ル事件ニ付キ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ

說明

本件ハ說明ヲ要セス

(參照) 法律勅令ニ別段ノ規程アルモノヲ除ク外左ニ掲グル事件ニ付行政廳ノ違法處分ニ山リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得(中略)五、土地ノ官民有區分ノ査定ニ關スル事件(明治二十三年法律第六百六號)

殘地引渡ノ請求

原告 愛媛縣南宇和郡綠部大字 高田 廣治 訴訟代理人 天野 確 郎

被告 農商務大臣男爵 平田 東 助 訴訟代理人 瀧地 八 郎

右當事者間ニ於クル山林境界訂正ノ訴ニ付被告ハ妨訴抗辯ヲ爲シタリ依テ雙方ノ辯論ヲ聽キ審理ヲ遂クル處

被告抗辯ノ要旨ハ本訴ハ山林境界訂正事件トシテ提起シタルモノナルモ其内容ハ原告ニ於テ山林誤謬訂正願ニ對スル指令ニ基キ實地ノ引渡ヲ受ケタルモ其殘地タル本訴目的ノ地所(甲第九號證 綠色ノ部分)ハ未タ引渡ヲ受ケサルヲ以テ其引渡ヲ請求シタルモ拒絕セラレタルニ依リ之ヲ提起シタルモノニシテ土地ノ引渡ヲ目的トスルモノナリ而シテ原告ハ本訴ヲ以テ明治二十三年法律第六號第五ニ依リ出訴シタルモノナリト云フモ同法ニハ法律勅令ニ別段ノ規定アルモノヲ除ク外云々トアリテ土地ノ官民有區分及境界査定ニ對シテハ既ニ明治三十二年法律第八十五號及同年法律第九十九號ニ其規定アルヲ以テ本件ノ如キ訂正ヲ聞届ケラレ其殘地ノ引渡ヲ求ムルモノハ法律第六號第五ニ該當セサルモノナリ依テ本件ハ之ヲ却下セラレタシト云フニ在リ

原告辯駁ノ要旨ハ本訴ノ起因ハ明治二十五年中原告ノ所有山即チ甲第九號證圖面ノ四番山ト訴外三番山トノ境界線タル同號證丁印ヨリ己印ニ至ル場所ニ境界記號ノ附シアルヲ發見シタルニ依リ直チニ其境界標ノ取除ヲ請求シタルモ採用セラレス依テ明治二十六年

八月山林誤謬訂正願ヲ提出シ同三十一年八月願意聞届ケラレタルモ實地ノ引渡ヲ受ケルニ及ンテ單ニ四番山ノ一小部分ノミヲ引渡サレタルヲ以テ殘部ノ引渡ヲ請求シタルモ證議ニ及ヒ難シトノ指令ヲ受ケタル次第ニシテ被告官廳ハ原告ノ主張スル四番山ノ境界ヲ否認シクルニ外ナラサレハ明治二十三年法律第六號第五ノ規定ニ依リ本訴ヲ提起シタルハ違法ニアラス又被告ハ明治卅二年法律第八十五號及同年法律第九十九號ニ付云々スル所アルモ該法律ハ本訴ニ關係ナキモノナリ而シテ本件ノ誤謬訂正願ハ明治三十一年農商務省訓令第十二號ニ依リ林野官民有區分調査會ノ調査ヲ經テ願意聞届ケラレ又殘地引渡ノ出願モ仍ホ同調査會ノ調査ニ屬シタルモ該訓令廢止ノ結果明治三十二年農商務省訓令第二十六號ニ依リ林野下屆審査委員會ニ於テ其調査ヲ爲シタルモノナリ依テ明治二十三年法律第六號第五ノ規定ニ依リ本訴ヲ提起シタルハ相當ニシテ敢テ違法ニアラス故ニ被告ノ抗辯ハ排斥セラレタシト云フニ在リ

依テ判決ノ理由ヲ説明スル左ノ如シ
原告ハ被告官廳カ原告ノ提出ニ係ル山林誤謬訂正願ヲ原届ケナカラ單ニ一小部分ノ地所ヲ原告ニ引渡シタルニ止マリ殘地ノ引渡ヲ拒絕シタルハ原告所有地ノ境界ヲ否認シタルモノナレハ明治二十三年法律第六號第五ノ規定ニ依リ本訴ヲ提起シタルハ相當ナリト云フモ本訴ハ要スルニ山林誤謬訂正願ノ聞届ニ依リ原告ニ引渡サレタル地所以外ノ地所即チ原告ノ所謂殘地ノ引渡ヲ目的トスルモノニ外ナラサレハ法律第六號第五ノ規定ニ該當セサ

殘地引渡ノ請求

ル、モ、ト、ス、又、他、ノ、法、律、勅、令、ニ、於、テ、本、訴、ノ、如、キ、事、件、ニ、付、出、訴、ヲ、許、シ、タ、ル、規、定、ナ、シ、故、ニ、被、告、ノ、妨、訴、抗、辯、ハ、其、當、ヲ、得、タ、ル、モ、ト、ス、其、他、尙、ホ、原、告、ニ、於、テ、陳、辯、ス、ル、所、ア、ル、モ、裁、判、ニ、必、要、ナ、キ、ヲ、以、テ、逐、一、其、說、明、ヲ、爲、サ、ス、
右ノ理由ナルニ依リ判決スル左ノ如シ
本件訴訟ハ之ヲ棄却ス
訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

官民有山林境界確認請求ノ訴 明治三十四年第六十六號
明治三十五年五月三十日宣告 (請求不立)

判決要旨

甲乙間ノ爭論ニ對スル民事裁判所ノ判決ハ甲丙間ノ行政訴訟ニ付キ丙ヲ羈束スルノ效力ヲ有セス

說明

本件ハ說明ヲ要セス

愛媛縣北宇和郡宇和島町
本町八十二番戸年民商

原告 山岡元太郎

補佐人 井關源八郎

愛媛大林區署長
林務官

被告 中山斧吉

訴訟代理人 黒河定吉

右當事者間ニ於クル官民有山林境界確認請求ノ訴審理ヲ遂クル處

原告陳辯ノ要旨ハ愛媛縣北宇和郡清滿村大字山財丁八十一番地第一大久保新開試作地反別六十八町五反九畝十三歩ト官林地同所丁七十八番地字大久保山林四十五町歩ト境界ハ村役場ノ野取り繪圖ニ明記シアル如ク從來別紙圖面ノ朱線ヲ以テ境界トナシ來リ候處明治三十四年六月二十四日附ヲ以テ被告ハ別紙圖面ニ其標本ヲ示シタル如ク査定シタル旨通告セラレタルモ該査定ハ頗ル不當ナリト示ヒ甲第一號證乃至甲第五號證ヲ以テ事實

民事裁判ト行政裁判トノ關係

ヲ證明シ被告ノ査定ヲ取消シ原告主張線ノ通り境界ヲ確認セラレタシト云フニ在リ
被告答辯ノ要旨ハ明治二十四年中字大久保山國有林境界査定執行ノ結果ニ於テハ乙第七
號證ニ示セル道路ノ下部及本件係争地ハ境界外ニ逸出セルモノ、如シ然レトモ乙第四號
證ニ記述シアルカ如ク明治十一年中字大久保官山四十五町歩ノ内八畝十二歩ヲ池床及薄
敷トシテ訴外人亡宮川和三郎ノ借地出願ニ對シ地方廳ニ於テ地目組替無料貸付ノ許可ヲ
ナシタルモノニシテ原告ノ訴求セル個所ハ同號證借地出願圖ニ表示セルカ如ク從來國有
林内ナルコト明ナリ而シテ乙第六號證訴外人山岡八十治提出ノ書面ニヨレハ池床敷八畝
十二歩ハ當時同人カ所有シタル丁八十一番地第一ノ内ニ字在セリ故ニ現所有主タル原告
ニ於テモ亦之ヲ是認セルモノナリ若シ池床敷カ丁八十一番第一ノ内ニ存在セルモノナリ
トセハ前々所有者宮川和三郎ハ何故乙第四號證ノ借地出願ヲナセシヤ是即チ自己ノ所有
地内ニアラサルカ故ニ借地ノ許可ヲ得タルモノニシテ係争地ハ原告ノ所有ニアラサルコ
ト明瞭ナリトス又原告ハ係争地及池床敷ノ周圍ハ總テ自己ノ所有ナリト主張スルモノ、
如シ然レトモ原告ノ所有地丁八十一番第一ノ國有林トハ乙第七號證ノ如ク谷川水流ヲ以
テ界セルコトハ乙第七號證訴外人隣接地西本滿衛提出ノ圖面ニ徵シ明ナルノミナラス乙
第九號證ニアルカ如ク右西本滿衛ト原告トノ間ニ於ケル土地境界確認事件ニ關シ明治三
十四年一月十八日宇和島區裁判所ノ證據決定ニヨリ證人ニ表示セラレタル原告提出ノ圖
面ニヨルモ原告ノ所有ニアラスシテ國有林ナルコトヲ原告自ラ表示シタルモノナリ以上

辯明スルカ如ク被告カ決定シタル境界線ハ正當ニシテ毫モ原告ノ所有權ヲ侵害セシ廉ナ
キニ依リ原告ノ請求ハ棄却アラントテ請求スト云フニ在リ
依テ判決ノ理由ヲ説明スル左ノ如シ
原告ハ明治九年地租改正ノ爲メ調製シタル村役場備附圖ノ寫(甲第一號證)及稅務署ニ在ル
圖面(甲第二號證)ヲ以テ係争地ハ原告ノ所有地ナリト主張スルモ乙第四號證ニ依レハ係争
地ハ明治十一年六月七日附ヲ以テ宮川和三郎カ官山貸下ヲ出願シ同年十月二十三日許可ヲ
得テ池床用地ト爲シタル場所ナルコト明白ナリ然レハ係争地ハ單ニ地租改正圖ニ民有地タ
ル形狀アルノミヲ以テ之ヲ官有地ニアラスト謂フテ得ス甲第一號證松山地方裁判所ノ判決
ハ原告ト西本滿衛間ニ於ケル土地境界ノ爭論ニ對スルモノニシテ第三者タル被告ニ對シテ
ハ羈束ノ效力ヲ有セス却テ原告カ該裁判所ニ提供シタル圖面ニ依レハ池地ノ存在明瞭ニシ
テ則宮川和三郎カ借用地タルコト疑ナシ甲第四號證ハ宮川和三郎ト山本ナカトノ間ニ於ケ
ル地所賣渡證書並ニ繪圖ニシテ原告カ所有權ヲ取得シタル證書ニアラサレハ立證ノ價值ナ
シ甲第五號證ハ拂下地年季明賦租願書ナルモ未タ其筋ノ許可ヲ得サル原告自身ノ作製ナル
ヲ以テ是亦證據ノ價值ナキモノトス其他原告ハ乙第二號證ヲ援引シテ係争地ハ明治二十四
年ニ査定濟ナルニ尙ホ査定ヲ爲シタルハ不當ナリト云フモ乙第二號證ハ調製ノ際被告ニ於
テ貸下地ニ心付カス其後愛媛縣廳ノ引繼ヲ得テ前査定ノ錯誤ニ出テタルヲ發見シ更ニ査定
ヲ爲シタルモノナレハ不當ノ處置ニアラス又原告ハ係争地ハ明治九年ヨリ鐵下年期ヲ申請

シテ長年間占有シ當然ノ權利アルモノナリト主張スルモ乙第六號證及乙第十號證ニ徴スレハ池床敷地ヲ原告カ所有ノ意思ヲ以テ平穩且ツ公然ニ占有シ居リタリト認定スルヲ得ス右ノ理由ニ依リ判決スル左ノ如シ
原告ノ請求相立タス
訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

○酒造稅滯納處分取消請求ノ訴 明治三十五年第七號
明治三十五年五月九日宣告 (請求不立)

判決要旨

酒類製造者ニ脱稅又ハ浦稅ヲ謀ルノ所爲アリト認ムルトキハ其納期ニ拘ハラズ造石稅ノ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得而シテ之カ徵收ニ付テハ國稅徵收法第四條ヲ適用スヘキモノトス

說明

本件ハ說明ヲ要セス

(參照) 政府ハ酒類ヲ製造スル者脱稅又ハ浦稅ヲ謀ルノ所爲アリト認ムルトキハ前條ノ納期ニ拘ラス造石稅ノ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得(酒造稅法第七條)納稅人國稅其ノ他ノ公課ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受ケ又ハ他ノ債務ニ因リ

強制執行若ハ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ未タ納期ノ到ラサルモ既ニ納稅義務ノ確定シタル國稅ハ總テ之ヲ徵收スルコトヲ得但納稅人タル會社カ解散ヲ爲シタルトキ亦同シ(國稅徵收法第四條第一項)

東京市神田區平永町
二十二番地酒造業

原告 告 生 武 山 藏

訴訟代理人 久 富 勘 三 郎

被告 東京稅務管理局長
田 中 國 三 郎

右當事者間ニ於ケル酒造稅滯納處分取消請求ノ訴訟審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ
原告ノ請求相立タス
訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

理由

原告ハ明治三十四年九月中酒類製造ノ認可ヲ受ケ而シテ酒造稅法第十三條但書ニ依リ査定ノ都度保證物提供ノ許可ヲ受ケ爾來酒類ヲ製造シ來リ一點ノ不正行爲アルコトナシ然ルニ被告ハ明治三十四年十二月二十四日稅金二百九十八圓八十七錢五厘明治三十四年十二月三十一日稅金百十八圓七十八錢五厘ヲ上納スヘキヲ命シ續テ滯納者トシテ原告ノ財産ヲ差押ヘタルハ全然法定ノ期限ヲ無視シタル失當ノ處分ナルニ付其處分ノ取消ヲ請フト云ヒ被告ハ酒造稅法第七條ニ依リ稅金徵收ノ手續ヲ爲シタルヲ以テ毫モ不法ノ點ナシト答辯ス原告ハ被告カ法定ノ納期前ニ本稅金徵收ノ手續ヲ爲シ續テ滯納處分ヲ爲シタルハ不當ナリト云フト雖モ酒造稅法第七條ニ政府ハ酒類ヲ製造スル者脱稅又ハ浦稅ヲ謀ルノ所爲アリト

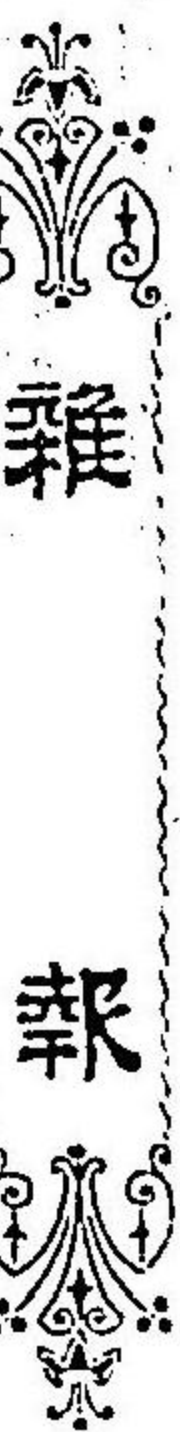
酒稅徵收法第四條第一項ノ適用

認ムルトキハ納期ニ拘ハラズ造石税ノ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得ル旨規定シア
リテ本件ハ被告カ原告ニ該法條ニ該當スル所爲アリト認メ税金二百九十八圓八十七錢五厘
ニ對シ之ヲ適用シ尙税金百十八圓七十八錢五厘ニ對シ國稅徵法第四條ヲ適用シ本件ノ處分
ニ及ヒタルモノナンハ被告ノ處分ハ不法ニ非ス依テ主文ノ如ク判決ス

百九十

司法 判例彙報十三卷行政判例 大尾

九〇



◎全國裁判所取扱件數 去月中全國裁判所に於て
取扱ひたる事件左の如し

去月中取扱民事事件數八万八千三百八十三件之ヲ前月ニ比スレハ
一万九千八百三十三件ヲ増セリ」取扱件數百ニ就キ既未濟ノ割
合ヲ舉ケレハ既濟五十一件未濟四十九件之ヲ前月ニ比スルハ既
濟十五件ヲ増シ未濟十五件ヲ減ス」第一審判決件數百ニ就キ控
訴ノ割合ヲ舉ケレハ控訴シタルモノ四件、控訴セサルモノ九十
六件其控訴判決ニ於ケル結局ハ判決百ニ對シ廢棄三十二件、棄
却六十八件ナリ第二審判決件數百ニ就キ上告ノ割合ヲ舉ケレハ
上告シタルモノ九件上告セサルモノ九十一件其上告判決ニ於ケ
ル結局ハ判決百ニ對シ破毀二十八件、棄却七十二件ナリ
刑事事件數二万七千八百九十一件之ヲ前月ニ比スレハ五千六十
四件ヲ増セリ」取扱件數百ニ就キ既未濟ノ割合ヲ舉ケレハ既濟五
十九件、未濟四十一件之ヲ前月ニ比スレハ既濟六件ヲ増シ未濟
六件ヲ減ス」第一審判決件數百ニ就キ控訴ノ割合ヲ舉ケレハ控
訴シタルモノ七件、控訴セサルモノ九十三件其控訴判決ニ於ケ
ル結局ハ判決百ニ對シ取消五十件、棄却五十件之ヲ前月ニ比ス
レハ控訴シタルモノ二件ヲ減シ控訴セサルモノ二件ヲ増ス又結
局ハ取消十件ヲ増シ棄却十件ヲ減ス」第二審判決件數百ニ就キ
上告ノ割合ヲ舉ケレハ上告シタルモノ十八件、上告セサルモノ

八十二件其上告判決ニ於ケル結局ハ判決百ニ對シ破毀十二件、
棄却八十八件之ヲ前月ニ比スレハ上告シタルモノ十二件ヲ減シ
上告セサルモノ十二件ヲ増ス又結局ハ破毀三件ヲ減シ棄却三件
ヲ増ス
檢事局第一審公訴事務取扱件數二万四千八百七十件内起訴一万
四千九百三十六件、不起訴八千三百三十一件之ヲ前月ニ比スレ
ハ取扱件數六千三百七十一件、起訴三千八百六十九件、不起訴
二千三百九十四件ヲ増ス又上訴事務取扱件數千九百九十五件之ヲ前
月ニ比スレハ二十五件ヲ増セリ
◎今年採用の司法官試験 試験及第者百三十八名
にして其の全數を有給試験として採用するを得ざ
りしは現在判檢事の缺員四十八名に相應する俸給
剩餘を限りとして年俸三百圓の有給試験を採用す
る事に決したるか故に二十七名の無給試験を生ず
るに至れり尤も明年二月には現試験中二十七名に
對し第二回試験を行ふ筈なれば其期を待て今回の
及第者を有給試験に採用する豫定なるも既に辭職
の決心を有するもの十餘名あるとのことなれば結
局十名位は二三月間無給試験ならざるへからざる

に過ぎず
◎今年提出の政府案 第十七議會に政府案として提出せらるべきもの左の如し

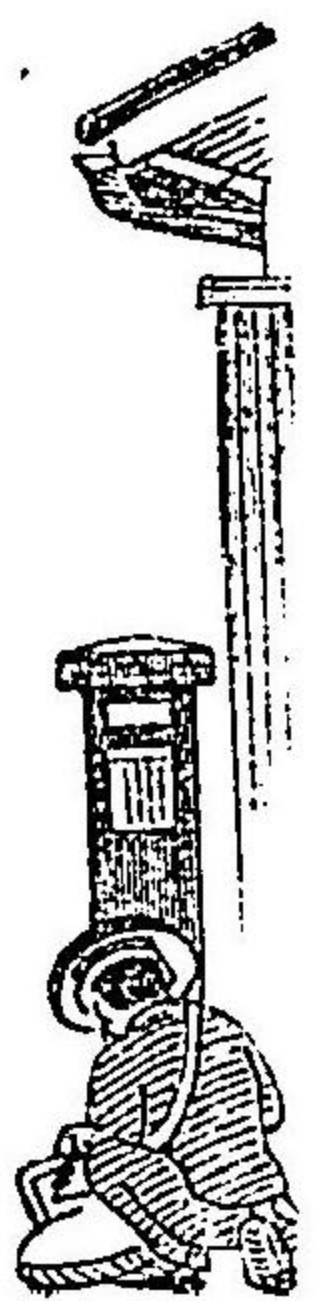
- 一、日本勸業銀行法改正案
- 一、日本興業銀行法改正案
- 一、破産法案
- 一、日清銀行法案
- 一、權限裁判所法案
- 一、行政裁判所諸改正案
- 一、鑛業條例改正案

工業法及銀行條例改正案は提出を見合はすることとなり又貯蓄銀行法改正案は或は提出せらるるやも知れずと云ふ

◎司法官の増俸 司法省より提出せる司法官の増俸案は一般判檢事の俸給を増加するに非らずして下級司法官の年俸六百圓を八百圓となすにありて總計十萬八千圓に過ぎず而して其十萬餘圓は登記所に於ける登記簿、監獄及集治監の整理に因りて生ずる剩餘金を以て充つる計劃なれば是れが爲め

厘毛だも本省經常費の上には増加を見ざる都合なりと云ふ

◎在監外人と現況 現今監獄制に於ては別に外人取扱ひに關する規定なく只新來の歐米人に對して食事の如きは洋食風に模したる普通囚人の食物を與へ寢所は簡單なる寢臺を給し居る由にて服役中の事業は目下重罪犯なき故可成手工を課し居る趣きなるが其の成績甚だ不良なりと云ふ



報 報

日英締約成る

今般日英兩國民間に滿腹の熱誠を以て歡迎せられたる日英締約の全文左の如し

日本政府及不列顛國政府は偏に極東に於て現狀及全局の平和を維持することを希望し且清帝國及韓帝國の獨立と領土保全とを維持すること及該二國に於て各國の商工業をして均等の機會を得せしむることに關し特に利益關係を有するを以て茲に左の如く約定せり

第一條 兩締約國ハ相立ニ清國及韓國ノ獨立ヲ承認シタルヲ以テ該二國孰レニ於テモ全然侵略的趨向ニ制セラル、コトナキヲ聲明ス然レトモ兩締約國ノ特別ノ利益ニ鑑ミ即チ其利益タル不列顛國ニ取リテハ主トシテ清國ニ關シ又日本國ニ取リテハ其清國ニ於テ有スル利益ニ加フルニ韓國ニ於テ政治上並ニ商業上及工業上格段ニ利益ヲ有スルヲ以テ兩締約國ハ若シ右等利益ニシテ別國ノ侵略的行動ニ因リ若クハ清國又ハ韓國ニ於テ兩締約國孰レカ其臣民ノ生命及財産ヲ保護スル爲メ干渉ヲ要スヘキ騷擾ノ發生ニ因リテ侵迫セラレタル場合ニハ兩締約國孰レモ該利益ヲ擁護スル爲メ必要缺クヘカラサル措置ヲ執リ得ヘキコトヲ承認ス

第二條 若シ日本國又ハ大不列顛國ノ一方カ上記各自ノ利益ヲ防護スル上ニ於テ別國ト戰端ヲ開クニ至リタル時ハ他ノ一方ノ締約國ハ嚴正中立ヲ守リ併セテ其同盟國ニ對シテ他國カ交戦ニ加ハルヲ妨クルコトニ努ムヘシ

第三條 上記ノ場合ニ於テ若シ他ノ一國又ハ數國カ該同盟國ニ對シテ交戦ニ加ハル時ハ他ノ締約國

ハ來リテ援助ヲ與ヘ協同戰闘ニ當ルヘシ媾和モ亦該同盟國ト相互合意ノ上ニ於テ爲スヘシ
第四條 兩締約國ハ孰レモ他ノ一方ト協議ヲ經スシテ他國ト上記ノ利益ヲ害スヘキ別約ヲ爲サ、ル
ヘキコトヲ約定ス

第五條 日本國若クハ大不列顛國ニ於テ上記ノ利益カ危殆ニ迫レリト認ムル時ハ兩國政府ハ相互ニ
充分ニ且ツ留意ナク通告スヘシ

第六條 本協約ハ調印ノ日ヨリ直ニ實施シ該期日ヨリ五箇年間效力ヲ有スルモノトス若シ右五箇年
ノ終了ニ至ル十二箇月前ニ締約國ノ孰レヨリモ本協約ヲ廢止スルノ意思ヲ通告セサル時ハ本協約
ハ締約國ノ一方カ廢棄ノ意思ヲ表示シタル當日ヨリ一箇年ノ終了ニ至ル迄ハ引續キ效力ヲ有スル
モノトス然レトモ右終了期日ニ至リ締盟國ノ一方カ現ニ交戰中ナル時ハ本同盟ハ媾和結了ニ至ル
迄當然繼續スルモノトス

右證據トシテ下名ハ各其政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ之ニ記名調印スルモノナリ

一千九百二十二年一月三十日龍動ニ於テ本書二通ヲ作ル

大不列顛國駐劄日本國皇帝陛下ノ特命全權公使 林 董 印
大不列顛國皇帝陛下ノ外務大臣 ラン ス ダ ウ ン 印

●刑法改正案●

同法案は目下貴族院の審議中なるか已に會期も大に切迫したることなれば本議會に於て兩院を通過
することは到底覺束つかからん

●新刊寄贈書目●

△法學 內外論叢 第一號

法律經濟に關する新聞雜誌少なきにあらず而も眞個に學問講究の好侶伴たるものに至ては寥々展
星も管ならず本誌は京都大學に於ける法學博士井上、仁井田、岡山、岡松外二三少壯教授の編輯に
成れるもの法理の啓發に關し一大雄編たるを疑さるなり(隔月一回十一日發刊一冊金二十八錢發
行所大阪東區備後町四丁目寶文館發賣所東京市神田駿河臺南甲賀町八、寶文館)

△國際法雜誌 第一號

國際法は世界に於ける國家生存の準則たるに拘らず之れか發達の甚だ遲鈍なるは其の原因一なら
ずと雖も之に關する參考良書之乏しきは慥かに其の一因たるを免かれず今や日英同盟已に成り平
和的國際法の應用益々多きを加ふるの時に當り此の一大良書の發刊を見るに至るは吾人の大に慶
とする處なり(毎月一回發刊一冊代金二十一錢)發賣所東京神田一ツ橋通有斐閣

△明治法學

△國家學會雜誌

△法學新報

△法政新誌

△法學協會雜誌

△日本辯護士協會錄事

△法學針誌

△早稻田學報

雜 報

第三十號 明 治 法 學 會
第百七十九號 國 家 學 會
第十二卷第二號 法 學 新 報 社
第五十五號 法 政 學 會
第二十卷第二號 法 學 協 會
第五十號 日 本 辯 護 士 協 會
第一號 京 都 講 法 會
第六十四號 早 稻 田 學 會

8/3/36

△獵友
△法曹記事
△行政法協會雜誌
△市町村雜誌
△自治機關
△教育公報
△白鳳新聞

第三卷第一號
第五百二十二號
第五卷第五號
第一百號
第二十五號
第二百五十五號
每號

日本狩獵協會
法曹協會
行政法協會
市町村雜誌社
自治機關館
帝國教育會
大阪府堺市白鳳新聞社

四

明治法學

第四十九號

一月五日發行

日會論叢質雜
繪說說議疑雜

◎ 金澤市會...
◎ 東京市會...
◎ 大阪市會...
◎ 京都府會...
◎ 廣島府會...
◎ 山口府會...
◎ 香川府會...
◎ 德島府會...
◎ 高松府會...
◎ 愛媛府會...
◎ 高知府會...
◎ 福岡府會...
◎ 佐賀府會...
◎ 長門府會...
◎ 肥前府會...
◎ 肥後府會...
◎ 大分府會...
◎ 宮崎府會...
◎ 鹿兒島府會...
◎ 那霸府會...

◎ 東京市會...
◎ 大阪市會...
◎ 京都府會...
◎ 廣島府會...
◎ 山口府會...
◎ 香川府會...
◎ 德島府會...
◎ 高松府會...
◎ 愛媛府會...
◎ 高知府會...
◎ 福岡府會...
◎ 佐賀府會...
◎ 長門府會...
◎ 肥前府會...
◎ 肥後府會...
◎ 大分府會...
◎ 宮崎府會...
◎ 鹿兒島府會...
◎ 那霸府會...

發行所

明治法律學校內

明治法學會

- △獵友
- △法曹記事
- △行政法協會雜誌
- △市町村雜誌
- △自治機關
- △教育公報
- △白鳳新聞

第三卷第一號
 第三百二十二號
 第五卷第五號
 第一百號
 第二十五號
 第二百五十五號
 每號

日本狩獵協會
 法曹協會
 行政法協會
 市町村雜誌社
 自治機關
 帝國教育會
 大阪府堺市白鳳新聞社

明治法學

第四拾九號
 十二月五日發行

口會論叢質雜 繪說說議疑俎

- 獨逸ハイデルベルヒ大學
- 株金請求事件ノ實業家
- 商事裁判所構成法案ヲ讀ム
- 法律學と哲學との關係を論じて法律家の品性に及ぶ
- 法律思想の普及
- 容假ノ占有ヲ論ス
- 廣告ニ關スル仁井田鈴木淺野三氏ノ所論ヲ評ス
- 廣告ノ性質ニ就テ
- 保險法問題解答
- 宮津監獄支署を觀る
- 貢進生の今昔
- 緒餘偶鈔

法學博士 仁井田益太郎
 法學博士 松澤仁一郎
 法學博士 松田雄太郎
 法學博士 三井平吉
 法學博士 青山衆司
 法學博士 川那邊貞太郎
 法學士 松浦散人
 法學士 校友學生數氏

彙報 獨逸商法の改正外數件
 錄事 數件
 判例 數件
 插畫 若干
 發行所 明治法律學校內
 明治法學會

後附一

法學新報第十二卷 第十一號

定價 一冊 金十五錢
六冊 金五十五錢
郵税 一冊 二錢
日發行

論 說

○讓渡することを得る債權と讓渡することを得ざる債權
法學博士 岡松參太郎

○撰擇持參人證券論
法學博士 高根 義人

○地方自治團體營業論
法學士 島村他三郎

○地租復舊問題
白鳥 太一

資 料

○獨逸國權限爭議制度一斑(二)

○英國動產買賣法
永山鐵男譯

○法界漫言(十一)
果譯博士 熱 河 生

○法律家の片影(八)
下器堂主人編

○渡米日記(二)
瀨下 清通

○院友の動靜

○東京法學院記事
○院友の動靜

問 答

○質貸借の終了と轉貸の関係
法學士 馬場 愿治

○後見人の支配人選任權
法學博士 岡野敬次郎

○犯罪實行中現に手を下して之を幫助したる者の處分
法學士 谷 野 格

判 例

○大審院判決例十件

雜 報

○戰時に於ける海底電線の切斷に關する原則
○裁判所構成法改正案の要點
○家屋稅事件の仲裁裁判官
○民事訴訟法改正案
○司法省の豫算
○上告趣意擴張聲明書の提出期間
○訴訟事務處の救済策
○又官高等試驗問題
○神戸院友秋季親睦會
○在院友小集
○院友會關西支部大會
○東京法學院懇親會
○津市講話會
○院友會名古屋支部大會

明文有的之御進物用

歲暮御進物用

證

一書籍

金 何 圓

右御預り置申候御入用之節引替奉差上候

神田一ツ橋通町七番地

有斐閣書房

發店儀今般各位ノ御便利ヲ計リ

書籍切手ヲ發行仕候間

歲暮年玉用トシテ最モ有益ノ御

進物用ニ御座候間續々御買求ノ

程願上候

新年御年玉用

一五拾錢ヨリハ何程ノ金額ニテモ御注文ニ應シ調製可仕候

一地方各位ニアリテハ御指定ノ金額ト共ニ郵稅書留料共金拾錢御送リノ程願上候

一弊店切手ハ御便宜ニ任セ特ニ内渡ノ方法ヲ説ク裏書致シ申候

後附三

發行所 東京市神田區一ツ橋通三三三番地 有斐閣書房

書籍雜誌 是何れの發行を問はず廣く 地方各位の御便利を計り 價格は低廉發送は敏速に

後附四

改正書籍目錄下編纂中

圖書雜誌 廉價販賣

政治、法律、理財
出版、販賣、專業

有斐閣書房

公立學校教科
參考用書新刊
書籍、雜誌、販賣

有斐閣雜誌店

東京市神田區一ツ橋町七番地(電話本局三二番)

取扱ひ懇切丁寧勉強販賣仕候間御取經御注文被下度候

御注文規定其他詳細なる事項は書籍目錄に掲載之候

廣告

東京市神田區淡路町二丁目七番地
電話番號本局八百七十三番 江木法律事務所

靜岡縣靜岡市紺屋町百廿一番地

江木倉橋 法律事務所

辯護士法學博士 江木 衷

辯護士 卜部喜太郎

辯護士 倉橋政直

事務所執務時間

每日 自午前九時 至午後五時 日曜。大祭日。休業

● 改正書籍目錄下編彙中 ●

書籍雜誌

此為各社の御利益を計り

價格低廉發送敏速

（第四）

圖書雜誌 廉價販賣

政治法律理財
出版販賣事業

有斐閣書房

公立學校教科
參考用書新刊
書籍雜誌販賣

有斐閣雜誌店

（東京市神田區通橋一丁目七番地）電話本局三三三番

● 取扱懇切丁寧勉強販賣仕候間御取纏御注文被下度候 ●

● 御取纏御注文被下度候 ●

廣告

東京市神田區淡路町二丁目七番地
電話番號本局八百七十三番
江木法律事務所

靜岡縣靜岡市紺屋町百廿一番地

江木法律事務所
倉橋

辯護士法學博士 江木 衷

辯護士 卜部 喜太郎

辯護士 倉橋 政直

事務所執務時間

每日 自午前九時至午後五時 日曜。大祭日。休業

4キナW-27

(明治二十七年一月第一卷第一號發刊)

一本誌ハ毎月一回發刊ス
 一本誌定價ハ一冊金十五錢六冊前金八十
 四錢十二冊前金一圓六十二錢外ニ郵稅
 一冊ニ付一錢但シ郵券代用ハ一割増
 一本誌ハ前金ニアラサレハ一切送致セス
 一本誌廣告料ハ一行五號活字廿二字詰金
 十錢半頁金貳圓五十錢一頁金五圓
 一本誌代金ハ總テ東京飯田町郵便電信支
 局宛ニテ御拂込被下度候
 一 代金拂込ノ際代金ノ領收證ヲ求メラル
 一 諸氏ハ送金ノ際端書一葉ヲ郵送セラ
 ルベシ
 一 本誌前金盡キタルハ發送ノ際封皮ノ
 氏名ヲ **朱書** 可致候間次號發兌迄ニ
 御送金可被下候
 一本誌代價拂込ハ東京麹町區飯田町五丁
 目卅八番地 **判例彙報社宛**
 御差出被下度候

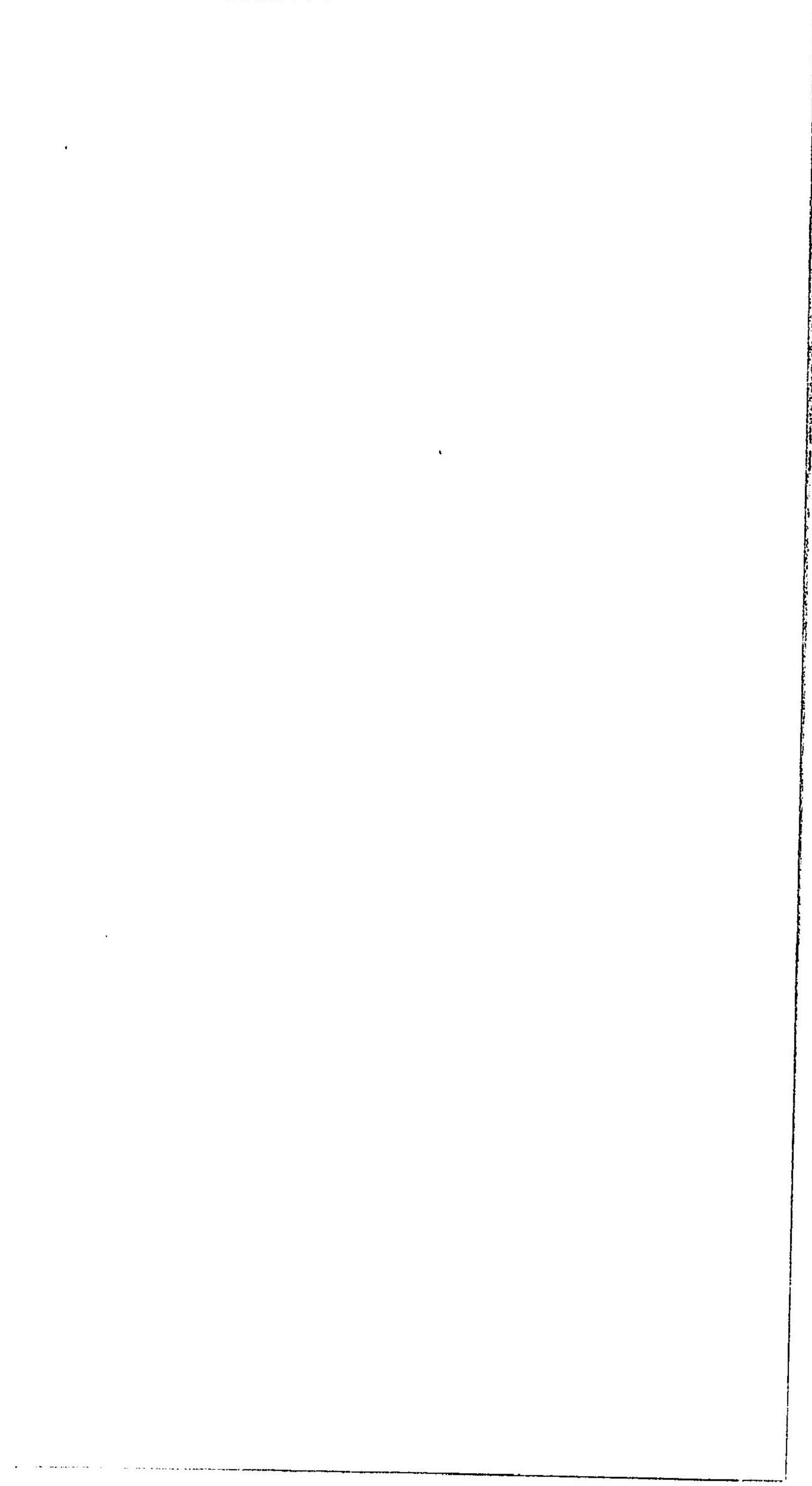
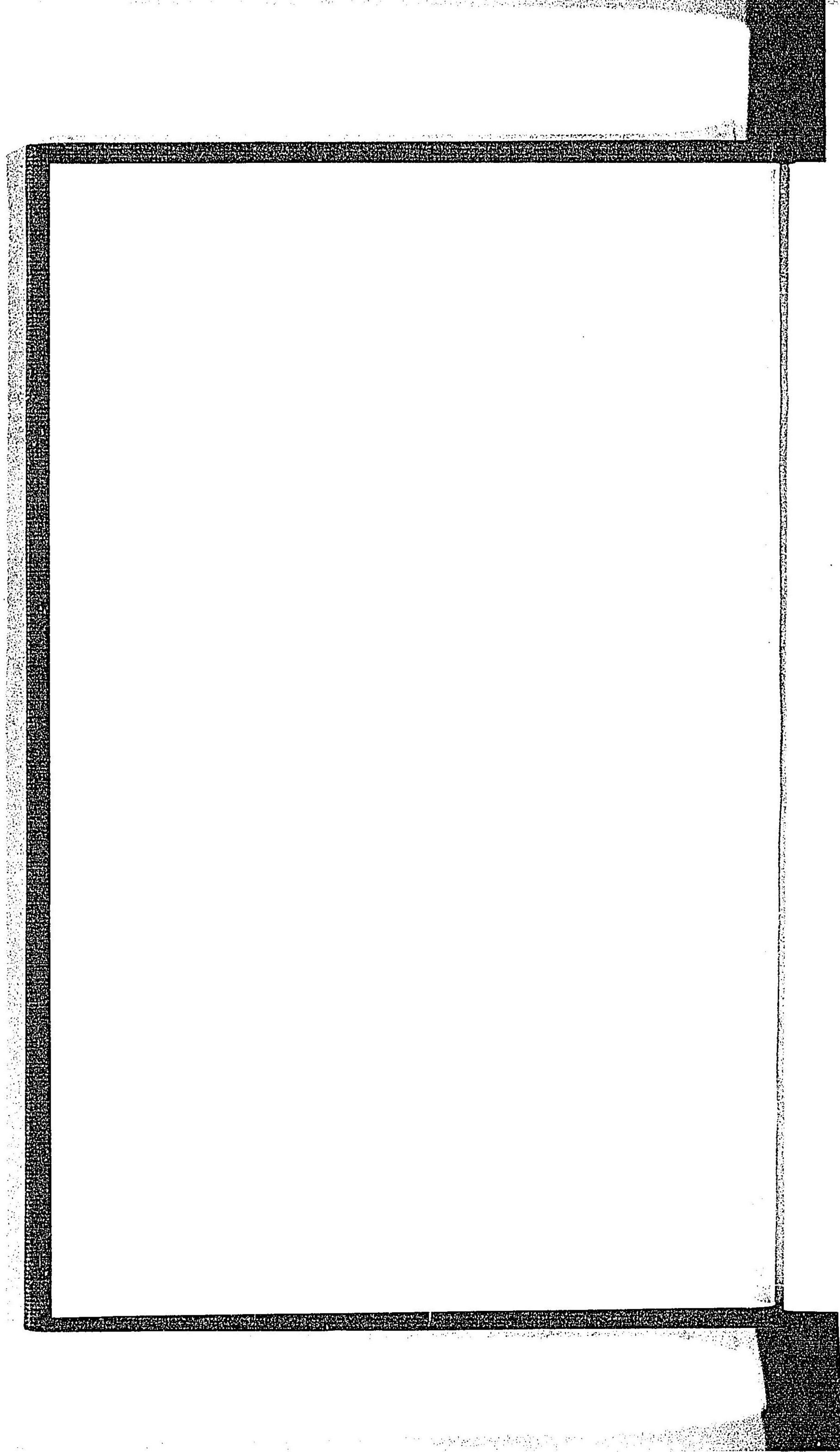
判例彙報大賣捌所

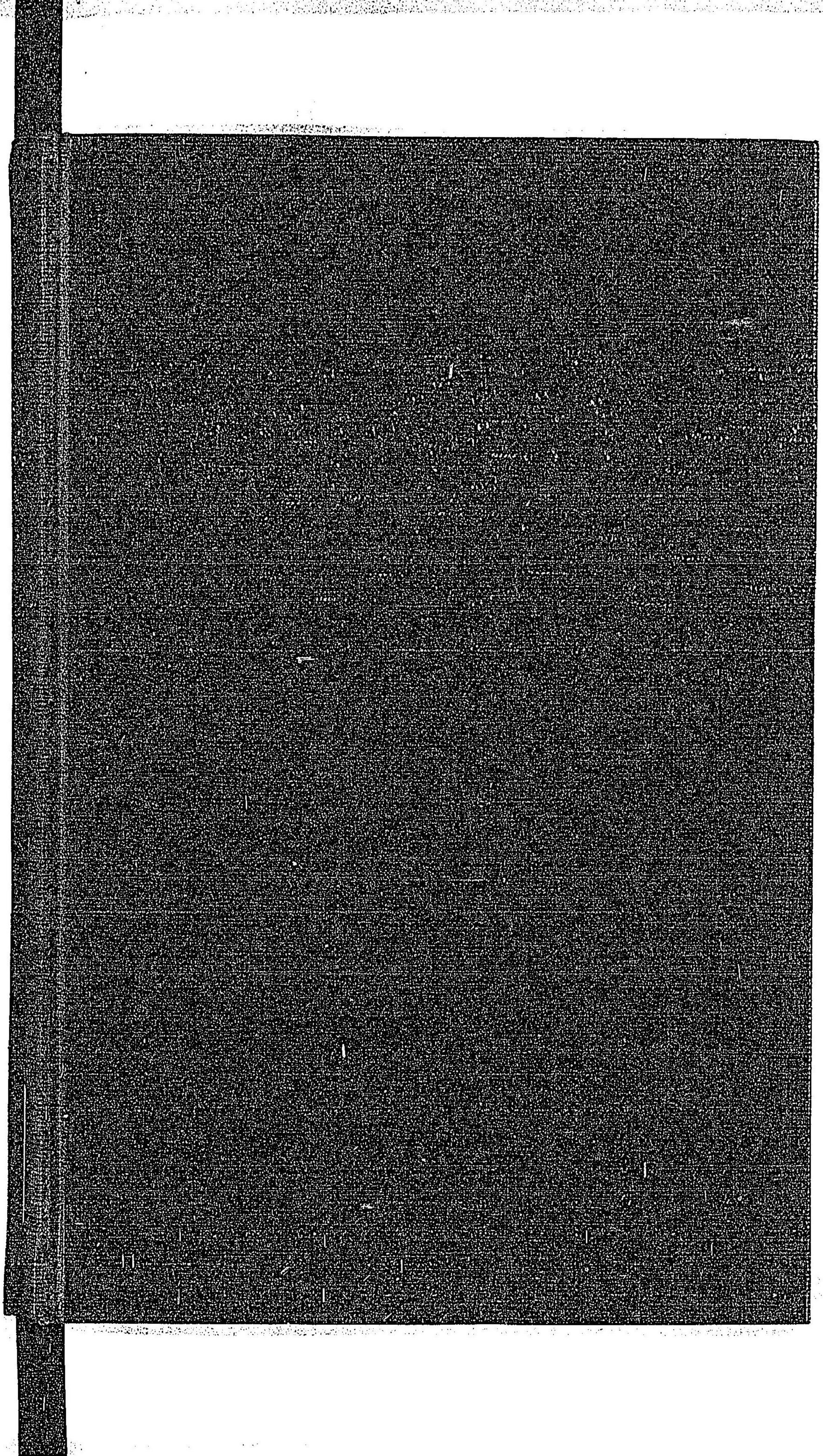
東京市神田區一ツ橋通町七番地
 有斐閣雜誌店
 東京市京橋區元數寄屋町三丁目八番地
 東海堂 川合 晋
 東京市神田區表神保町
 東京 堂

明治三十五年十二月十六日印刷
 明治三十五年十二月十七日發行

編輯人 江 木 衷
 東京市神田區淡路町三丁目七番地
 發行人 工 藤 角 三 郎
 東京市麹町區飯田町五丁目三十八番地
 印刷人 島 連 太 郎
 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地
 印刷所 三 秀 舍
 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地
 發行所 **判例彙報社**
 東京市麹町區飯田町五丁目三十八番地

明治二十七年一月第一卷第一號發刊





禁電子式複写

